



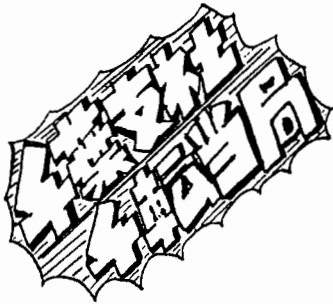
# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒280 千葉市要町2番8号(動力車会館)

電話 | (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 千葉 (22) 7207 番

90.6.11 No. 3232



## 怒りの弾効に、悲鳴



### 土岐 禎<sup>たぢ</sup>千葉運転区長は 組合潰し、人権侵害をやめろ

千葉転土岐区長による異常な組合潰し攻撃と、不当処分策動に、ついに堪忍袋の緒が切れる。われわれは、耐えに耐えて話し合いによる解決を求め申し入れ等を行ってきた。しかし土岐区長はじめ千葉支社は、謝罪し非を改めるところか、

逆に勤労千葉に対し「申し入れ」を行ってこるなど、全くの開きなおりに出ている。いわく、「いわれのない非難・中傷を繰り返している」とか「現場長(土岐)は、その権限と責任において、当然の措置を行った」と黒を白と言いくるめようとしているのである。

## 周知住民から 激励と差し入れ!

こうした当局への怒りの弾効第一弾として、六月四日、千葉駅頭での宣伝↓支社前抗議↓千転前土岐区長弾効をやりきったのである。

千転前では、おすおすと出てきた当局は、「周辺から苦情が出ているのでやめてくれ」と泣訴「われわれの怒りは倍加する。その様子を見ていた住民から、「別にうるさくない」「区長はそんなにひどいのか、敗けるな」と声援が送られ、ジュースまで差し入れてくれた。

助役どもは、もう何も言えず呆然自失、ただ立ちすくんでいるだけである。

われわれは、当局が謝罪し、違法行為をやめるまで弾効することを宣言し、その日は終了した。土岐区長は、組合潰し、人権侵害をやめろ!

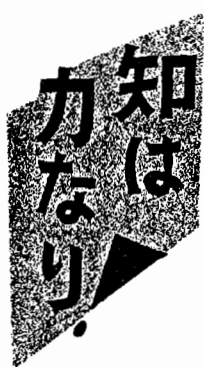
## 労働学校に参加しよう

勤労千葉労働学校第三回講座の開催が、六月一日といよいよ目前に迫ってきました。

今回は、埼玉大学経済学部教授である鎌倉孝夫先生をお招きして、「激動する世界情勢は何を語るのか?」をテーマに、「新たな時代の労働運動の課題」をどう捉えるのかというところに重点を置いて講演がなされます。

激動する時代 九〇年代とは、私たち労働者にとってどういう時代であり、何を語っているのか? その背景にあるものは?

わずか数年の間に労働運動をめぐる状況は激変



## 時代に通う 労働運動を創造せよ

こうした時代の中で、われわれ労働者が真に労働者らしく生きるために、時代そのものを正確に把握することは極めて重要であり、その上に立って、労働者としてどういう観点を持つべきなのか、日本労働運動はどの方向を指向すべきなのかについて

認識し、行動することが求められている。時代を語るものが、今やトレンドイヤーなのであり、時代そのものを動かすエネルギーを労働者こそが持つものである。時代をけん引する原動力たるためにも、又、日頃の自分たちの運動を検

した。「戦後政治の総決算」―臨調・行革の最大の突破口であった国鉄労働運動破壊のための、国鉄「分割・民営化」の強行、民間労働運動さえ認めないとする総評解体―産報化への道をころげ落ちる「連合」の発足、消費税の導入、マネーゲーム的日本の経済の構造、新教育指導要領における、「日の丸・君が代」天皇制イデオロギー―思想教育と軍事費の突出など、外に侵略、内に反動という歴史的側面が現今の情勢である。

世界情勢を見ると……中国の天安門事件、東ヨーロッパ情勢(ベルリ

ンの壁崩壊―東西ドイツ再統一―ペレストロイカ―ソ連バルト三国の独立宣言採択等)など、今までの「常識」の範中をはるかに越え、予測もつかないような、すさまじい激変と流動化現象―他方、帝国主義の側は、あのブラックマンデー以後抜け道のない経済破綻の中で、「強いアメリカ」を標榜する米帝の武力介入・EC統合、日米経済摩擦の激化など、とめどもない矛盾の淵で、あえぎにありえている。

今や情勢は、いつか来た道―侵略と戦争への階段を一步また一步と進んでいるのではないか!

証する意味から言っても、自らをリフレッシュさせ、時代に通用する理論を持つためにも、今回の講座はタイムリーなものである。

労働学校に参加して、新たな労働運動の世界を拓こう!

知は力なり!